

# 阿蘇市下水道事業

## 中期経営計画

平成18年3月

## 1. 計画策定趣旨

### (1) 社会的背景

本市は、旧一の宮町、旧阿蘇町、旧波野村が平成 17 年 2 月 11 日に合併し誕生しました。九州のほぼ中央に位置する東西約 30 km、南北約 17 km、面積 376.25 k m<sup>2</sup>の農業と観光を中心とする市です。人口動向は、平成 12 年国勢調査では 30,457 人でしたが、平成 17 年国勢調査では 29,639 人と減少しております。

本市は、世界に誇る阿蘇山を有し、地元阿蘇内牧温泉街においてはかなりの観光客が見込まれ、多数の旅館、ホテル、保養所、商店街が経済成長期中で観光事業の役割を果たしてきましたが、その一方排水側溝や水路等に生活雑排水が滞留し、環境が著しく悪化した状態となっていました。その影響により市を流れる一級河川、黒川を始めその支流の公共水域の水質汚濁が進みつつあり、水質保全・自然環境保全改善が重要な課題となり、生活の豊かさ、快適な生活環境づくりが望まれる現代、汚水処理施設の整備が急務となっております。

### (2) 事業の現状

本市の下水道事業については、合併前の旧阿蘇町のみ事業が行われており、事業計画についても、旧阿蘇町の計画をそのまま引き継ぎながら事業を進めております。合併後の下水道普及率は 16 年度末で 15.3%と非常に低い水準であり全国平均 68.1%からみてもわかるように、下水道整備が進んでいない現状です。しかし、下水道事業は、生活環境づくりに欠くことのできない施設であるため阿蘇市としての事業計画を早急に定めるとともに、整備の拡大が必要であります。また、事業を進めていく中において当然その維持管理をしていかなければならないことは普遍的なことであり、本来下水道使用料等でその維持管理費を補うことがもっとも重要なことではありますが、現在管きよ整備等を進め、多額の事業費を投資しており加えて起債償還等があることから、交付税算入があるとはいえ、一般会計からの繰入金を行っている状況です。

### (3) 事業の課題

企業債の元利償還及び老朽化が進む施設の維持管理に多額の経費を要することにより、下水道財政を圧迫するなど下水道事業をとりまく状況は、厳しさを増しています。こうした中にあっても、下水道のあるべき将来像を掲げ、阿蘇の雄大な自然環境を守る使命を果たすため、また環境問題が地球規模で語られている今日にとって、阿蘇市が国際環境観光都市としての確固たる評価を得るためにも下水道整備は不可欠であります。今後においては公共下水道事業・特定環境保全公共事業・農業集落排水事業等を考慮し、阿蘇市全体の総合的な環境保全に取り組み方針を示していく必要があります。

## 2. 事業運営の基本方針

### (1) 計画の位置付け

中期経営計画は、下水道事業の阿蘇市集中改革プランとして、平成 17 年度から 21 年度までの具体的な取り組み目標を設定し、着実に推進するために策定するものです。

### (2) 計画策定の期間

開始年度	終了年度
平成 17 年度	平成 21 年度

### (3) 財政運営の目標

下水道の供用開始区域が増えたこと及びアパートなどの建設による世帯数の増加に伴い水洗化率は上昇傾向にあります。

しかしながら、ホテル等の多大な有収水量の見込まれる施設の減少に伴い使用料収入の伸びが低迷しています。また、維持管理においても中継ポンプ場の増設に加え浄化センター等の施設・機器の老朽化が進んでいることから計画的な改修も必要となってきました。このように非常に厳しい状況ではありますが維持管理の効率化や機能向上を図りながら水洗化促進強化に努力していきます。

### (4) アウトソーシング等民間的経営手法の導入等についての方針

現在、処理場運転管理業務について民間委託を行っていますが、今後も民間的経営手法の導入を推進する取組としてアウトソーシングの拡大を積極的に行います。

## 3. 事業計画

### (1) 整備計画

平成 15 年度に事業計画変更認可による区域の拡大に伴い黒川処理分区の整備を計画し実施します。

また、浄化センターの老朽化に伴う大規模な改築更新を補助事業により計画しています。

(単位：千円)

年 度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度
総事業費	586,000	600,000	600,000	500,000	500,000

## (2) 収支計画

黒川処理区の整備に伴い水洗化戸数の増加が見込まれます。早急な接続の啓発に努め使用料収入の確保を目指し、同時に不明水の調査を行い有収水量による浄化センターの処理容量を最大限に活用し維持管理費のコスト削減に努め資本費算入率を上げ一般会計繰入金の抑制を図ります。

### 下水道普及に伴う予測

年 度	17 年度	18 年度	19 年度	20 年度	21 年度
下水道普及率 (%)	16.7	17.6	18.1	21.5	23.6
水洗化率 (%)	76.5	79.2	81.2	82.5	83.2
有収水量 (m <sup>3</sup> )	682,000	698,000	714,000	730,000	746,000

## (3) 主要施策

施 策 名	実施時期	内 容
黒川処理区整備	平成 17 年度より	元黒川、坊中地区の一部の整備
浄化センター改築	平成 21 年度より	浄化センター機器老朽化に伴う改修工事
成川中継ポンプ場建設	平成 18 年度より	黒川処理分区の整備に伴う中継施設
不明水調査	平成 18 年度より	管渠の老朽等により不明水の流入が多く原因調査を行い減少させる

## (4) 企業債現在高

(単位：千円)

年 度	17 年度末	18 年度末	19 年度末	20 年度末	21 年度末
元金総額	3,069,259	3,216,059	3,040,364	3,125,944	3,213,309

## (5) 定員管理に関する計画

阿蘇市定員適正化計画に沿って行います。

## (6) 給与の適正化に関する計画

一般会計に準じて行います。

#### 4. 経営基盤強化への取組

##### (1) 経営改革への取組

整備拡大の促進を図りながら、老朽施設については、その延命化を図り計画的に近代的な改築・更新を行い業務量の低下による経費削減と整備拡大に伴う使用料収入の確保により収入率の向上を目指します。

	概 要	取組・成果
浄化センター改築	老朽機器等の改修により維持費の減少が見込まれる	近代化の機器の導入により消費力等の抑制など
使用料収入の確保	黒川処理区の整備に伴い処理区域内人口の増加	元黒川・坊中地区一部 242世帯の接続の推進
不明水の原因追求	不明水の減少による処理槽運転時間の削減を行う	維持費の削減と浄化センターの増設時期の見直し

##### (2) 人材育成の取組

専門的な技術及び知識が必要とされるため、様々な研修会等に参加し、職員の質に加え専門知識を育成しスキルアップを図ります。

#### 5. 経費削減等の取組による効果額

管理職手当、特殊勤務手当の削減等により人件費約1,000千円の削減を行います。

#### 6. 計画達成状況の公表

##### (1) 公表時期

	公表時期
中間報告	平成20年5月
最終報告	平成22年5月

##### (2) 公表方法

本庁・支所の掲示板及びインターネットを利用した阿蘇市のホームページ等を利用しながら公表します。